

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	24-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Disentangling the contributions of alcohol use disorder and alcohol-related liver disease towards dementia: A population-based cohort study 飲酒障害とアルコール性肝疾患が認知症に与える影響：地域ベースのコホート研究		
<b>執筆者</b>		
Zhao S, Widman L, Hagström H, Shang Y.		
<b>掲載誌</b>		
Addiction. 2024 Apr;119(4):706-716. doi: 10.1111/add.16395.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
飲酒障害、アルコール性肝障害、認知症	38044804	
<b>要旨</b>		
<b>背景：</b> 飲酒障害 (AUD) とアルコール性肝疾患 (ALD) が認知症に与える影響を、スウェーデンにおける全国的なコホート研究においてにする。		
<b>方法：</b> 1987年から2020年に、全国疾患登録からの慢性肝臓病の登録による、スウェーデンの肝疾患の疫学研究 DELIVER を実施した。国際疾病分類 ICD-9 と ICD-10 により AUD, ALD および認知症を定義した。AUD のみ、および ALD と認知症との関連を、交絡因子を調整した Cox 回帰にて解析した。死亡による競合リスクを考慮して発症率を計算した。		
<b>結果：</b> AUD のみ 13 万例、ALD 17754 例、対照 250 万人であった。8.9 年の追跡期間中、それぞれ、10.4%、12.3%、5.6% が認知症を発症した。認知症発症のハザード比は、対照に比べて、AUD のみで 4.6、ALD で 8.6 であった。AUD のみでは、血管性認知症のリスク (ハザード比 2.3)、アルツハイマー病のリスク (ハザード比 1.4) が上昇したが、ALD では血管性認知症リスクのみ上昇した (ハザード比 2.7)。認知症発症年齢の中央値は、AUD のみで 67 歳、ALD で 63 歳、対照で 85 歳だった。		
<b>結論：</b> スウェーデンでは、AUD が認知症リスクを上昇させ、より若く発症した。		